

第4節 調査結果の利用上の留意事項

1. 産業廃棄物の種類の区分（中間処理に伴う種類区分の変更）

本報告書では、産業廃棄物の種類を2段階で設定している。

第1段階	発生時点の種類
第2段階	排出事業者の中間処理により、変化した処理後の種類 例 木くず → (焼却) → [燃え殻]

種類の変換は、アンケート調査で回答された中間処理方法と廃棄物の組み合わせによって電算処理で行った。

なお、本報告書では、図表中の表現により種類を変換しない集計を用いたものがあるため、この場合においては、「種類：無変換」と表示している。

2. 建設業の地域区分

建設業の推計計算を行うために、活動量指標として元請完成工事高を用いたが、建設業の事業特性上、この母集団の活動量指標は県全体値のみが入手可能であり、生活創造圏別の値は公表されていないため、建設業の場合は、原単位法に基づく推計計算は県全体についてのみ可能である。

したがって、本報告書では、産業廃棄物発生量等について、建設業の全体量を地域別の人口で按分することにより、各地域の量を算出した。

3. 単位と数値に関する処理

(1) 単位に関する表記方法

本報告書の調査結果表では、すべて平成12年度1年間の量であることを明らかにするため、図表の単位は「千t/年」で表示しているが、文章中では原則として「千t」で記述している。

(2) 数値の処理

本報告書に記載されている重量（千t表示）及び構成比（%）等の数値は、四捨五入しているために、総数と個々の合計とは一致しない場合がある。

(3) 表中の空欄は該当値のないもの、「0」表示は500t/年未満であることを示している。

4. 農業、鉱業及び医療業の取り扱い

農業、鉱業及び医療業から排出される産業廃棄物の処理・処分状況は他業種と異なり、農業からの家畜ふん尿は農地還元、鉱業からの砂利洗浄汚泥は砂利採取跡地への埋め戻しに等、産業廃棄物の中間処理あるいは最終処分といった処理体系に区分することが困難であるため、第2章から第3章までの内容から除いている。

また、医療業からの感染性廃棄物は、その特性により他の産業廃棄物とは処理が異質であることから、第2章から第3章までの内容から除いている。